（２）コンテナ苗とは

容器内面にリブ*（縦筋状の突起）を設け、容器の底面を開けるなどによって、根巻き防止できる容器（林野庁が開発したマルチキャビティコンテナや、宮崎県林業技術センターが開発したMスターコンテナ*等）で育成された苗を総称し、「コンテナ苗」と呼んでいます。

（３）コンテナ苗の利点

従来の普通苗*と比べ、①通常の植栽適期（春や秋）以外でも、高い活着率が期待できる　②植栽が容易である（植穴が小さくて済む）　③植栽当年から成長を期待できる　④育苗段階で苗畑等の広い圃場を必要としない等　の利点が挙げられます。

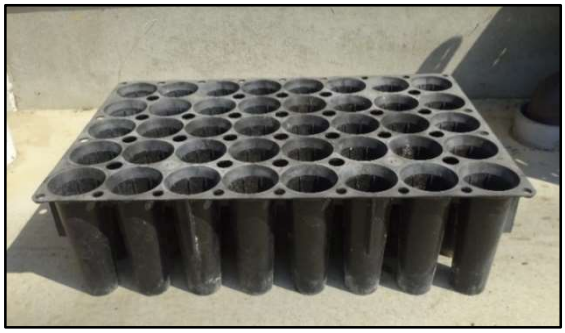
２　マルチキャビティコンテナの種類

日本製のものとして、内面リブ方式、サイドスリット方式等があります。

（１）内面リブ方式

キャビティ容量が 150ml（JFA150）で 40 キャビティ*のもの（図-２-1）と、300ml（JFA300）で 24 キャビティの２種類（以下　トレイ*）があります。150ml 容量と 300ml 容量で育成した苗を比較すると、①現場で植栽した際でも、その後の生育に大きな差はないこと（西山　2019）、②150ml 容量の方が育成した苗が軽量であること等から、現在、150ml 容量が主流となっています。

キャビティ内側には縦筋状に、根巻き防止用の突起（リブ）が８～12 本あります。また底面は、空中根切りを想定し、大きく開いています。



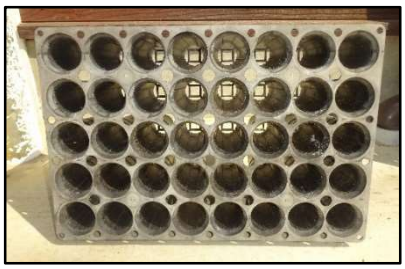
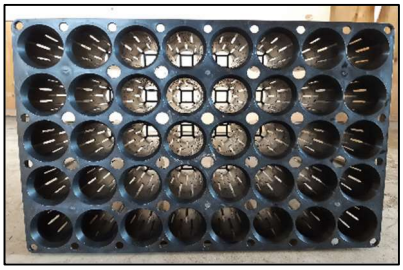


図-２-１　内面リブ方式（縦 30cm×横 40cm　150ml キャビティ 40 個連結）

（２）サイドスリット方式

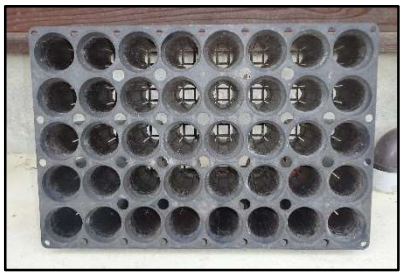
サイドスリット方式（図-２-２）では、コンテナキャビティの側面に、縦筋状へ８本、上下２段のスリット*が設けられており、水平根*の発達を促す（落合　2016）とともに、根巻き防止の役目も果たしています。また、底面は、内部リブ方式と同様、空中根切りを想定し、大きく開いています。



図－２－２　サイドスリット方式（縦 30cm×横 40cm　150ml キャビティ 40 個連結）

（３）内面リブ方式＋サイドスリット方式（OY150）

上記１）、２）の折衷タイプが発売されており、最近よく使用されています（図－２－３）。コンテナキャビティの側面に、縦筋状へ４本、下段のみスリットが設けられており、底面は、空中根切りを想定し、大きく開いています。



図－２－３　内面リブ方式＋サイドスリット方式
（縦 30cm×横 40cm　150ml キャビティ 40 個連結）

３　コンテナ苗の規格

岡山県のコンテナ苗規格（山行き苗規格*）は、表－１のとおりです。

山行き苗規格外の苗（山行き苗規格を下回る苗）を現地へ試験的に植栽したケースでは、その後の生育が山行き苗規格のものに比べ、劣る事例(調査区３、調査区４)も岡山県内で確認されています（西山　2019、図－３－１）。この点からも、コンテナ苗規格は非常に重要なものであることから、これを厳守する必要があります。

なお、都道府県によって、コンテナ苗の規格はそれぞれ異なることから、他府県への苗配布に当たっては、配布区域と合わせ、特に注意が必要です。